



洛星新聞



発行所
ワートル学園
洛星中学校



編集
洛星中学校
新聞部

新入生 諸君に

ホワイ特校長

今日から皆さんが本校で一学年に入學することを許可いたします。

皆さんおめでとうござい
ます。皆さんは沢山の志願
者の中から立派に試験に合
格して此の学校の生徒にな
ることが出来たのでありま
す。皆さんもうれしいでし
ようがお父様やお母さんも
大変嬉しく思っているとい
やうでしょう。今日私は皆
さんに申し上げたいことが
沢山ございます。けれども
どれから申し上げてよいか
分らないのであります。さ
て最初に皆さんにお礼を申
しあげたいと思ひます。そ
れは本校の入學試験や其の
他のことのために皆さんが
心から努力して下さいまし
た事に対してであります。
さて皆さんは本校に於て幸
福であつてほしいと願つて
おります。

何故ならば此の学校は皆こ
んの学校だからであります。

けれども本校にはいろいろ
な規則があります。この規
則には皆さんは従わねばな
りません。例外は許されな
いのであります。併し本校
の罰則は不変少ないもので
あります。何故ならば私たち
はそのようなものを必要と
しないからであります。こ
うのは本校の生徒であつ
て總べての規則を守らない
ものはこの学校から出て行
かなければならぬからで
あります。本校の規則を守る
ことは初めには一寸つらい
かも知れませんがそれだから
といつておそれる必要はあ
りません、正しい方法でこ
れを熱心にまじめに実行し
ようとするならば必ず出来
る筈であります。私達の生
徒がこの学校をなわち生徒
にとつてはホワイ二の家庭であ
る此の学校に於て幸福であ
つてほしいと願つており、
ですから生徒たちがおそれ
るような心いさをつくり

たくさんはいいのであります。本校の目的は印刷された本を教えるだけではありません。どのようなようにして生活すれば良いかということ、すなわち価値の感を教えるのであります。最後に皆さんに申し上げたいことは学校の名誉を同時にでも顧及してもらひてはならないということであり、皆さんは心から此の学校を愛しているならば此の学校の名誉を大切に守る筈であります。和平會さん以上の事をよくまもつて此の学校のよい生徒になつて下さい。そうすればお父さんはやお母さんは大変お喜びになるでしょう。私も大変うれしく思いますが、皆さん規則正しい生活をして、大天の身体をつくつて勉強にはげんで下さい。何時でも元氣な明るい顔を見せて下さい。



父兄の皆さんへ

本ワイト校長

此の秋は原稿を持たないで私の心の中に一杯あることをお話することから出来ることよろしいのであります。けれども私の日本語は大変へたでありますから残念に思つております。さて皆さんがお子さんをこの学校に送つて下さいましたことについて皆さんがどれほど私達を顧りていらつしやるかということが分つてうれしく思つております。

皆さんのおつとも氣になることが皆さんのお子さんの幸福と將來の成功というところであることを知つております。ですから皆さんが私達にかけたいらつしやる義務に常にふさわしい者になりたいと思つております。その上に私は皆さんのお子さんを幸福に成切させるために全力を盡したいと思つております。ここで皆さんの一人一人が心に留めて頂きたいことがございます。即ち何かおぼろげになりたうこと、或は私達のやり方について分らないことがあります。ならばどうも御遠慮なくおたずね下さい。本校は他の学校と一寸ちがつ

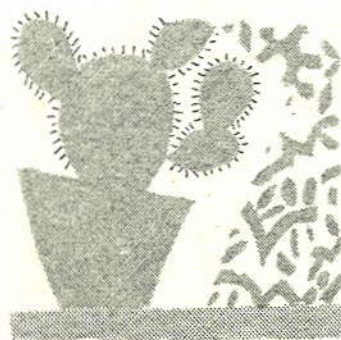
た特徴の制度を持つております。

なんであるかと申しますと本校の教育の制度はカトリック的な教育制度であるからであります。これこそ本校の特徴なのでございまして皆さんがまだはつきりとお分かりにならないかも知れませんが、すくなく本校の教育制度について詳しく説明申し上げたいと思ひます。

それは此の学校ばかりではなくて他の学校はだめだというのではあります。また此の学校の制度は本校の経営主体である聖ヴィアトル育英會が世界各地にもつてい各学校の制度と共に全會に依つて統一されていということであり、例へば本校にはホームルームの先生はありますが担任の先生はおりません。此のことについてましては今日印刷をさしあげます。次に本校には現在PTAの組織はありますが、せんけれども將來には出来る積りですが今はいろいろの準備なことをゆるぎないのであります。PTAの組織がないからといつて父兄の効力がいらないというわけではあります。皆さんの効力がなければ学校教育の目的を達することが出来ないのであります。PTAの組織はなくとも實際にはPTA

の使命が果されております。

例へば昨年は一ヶ月に一度、他學華その外いろいろな會には父兄の皆さんが派山おいで下さいました。今年も皆さんが学校へおいで下さることをお待ちしております。洛聖中學校は運動や設備のために有名になるのではなくて生徒が各學校で身につけるいろいろな美徳のため有名にならねばならないと、苦手であります。そしてこそ生徒達は幸福になるのであり、その中において成功するのであり、未來の栄光のためには準備する事が出来るのであります。皆さんが御子孫のため、私達に御協力を下さる御に願ひ致します。最後に学校の発展のために御祈りいたしませう。皆さんも御子孫が御子孫として



新入生を むかえて

二年A組

松原 君



僕は今年の新入生をみて、とてもかわいくみえる。一つしか生がわかないのにかわいいといつたらかわいさがどうとしか僕は言えない。なんとなく兄さんぶるのは僕だけではないだろう。そしてこの新入生を見て、去耳、僕は兄が元氣よく生々々校門をくぐりまじめくさつて勉強した事が联想されない人はないだろう。

僕は、もう二年生なの。だからより兄さんになつて新入生をよく導かなくてはならないのは当然な事だ。そして二百余名の力で洛星を光かがやくりつはな学校にりなくてはならない。それは口でいうようなまやかしいことではない。校則を守るのは当然の事、その上個人個人が、この洛星のりつはなしようらいを助めて、共同でやらなくてはならない。その前途には皆しいかなしい手がかりなく横たわっているかもしれない。

い。しかし僕は最後に洛星の上には、希望に満ちた明るい星が、かがやく華をまきこんでいる。

よろこび 土佐のおばあさんへ

竹中 建三

おばあさんながらくさばさといました。それらの方々はみな元氣ですか。京都のさくもいまは熱かいで毎日大勢の人が花見に出かけておられます。

さてながりあいだおばあさんに心配をおかけしておりました。洛星中学校のしけんはどうかいたしました。毎日のようにはげましの手紙をいただきましたことは、おれいの申しようもでいません。ありがとうございました。

去る八日お母さんと入学式に行つてまいりました。あためしい制服制着をつけたときこのよろこびは一生わすれることが出来ないと感じます。入学式をすませてもう六日、だんだん洛星中学校の心いさにもなれてまいりました。この学校の一挙大切なまじり、時間をげんしやり、睡眠を奪うといふ

ことです。これらのことを念に守ることは少しづつのことですが、しよつらいの定めになることと想つてがんばつていきます。

さようなら



X 君へ

御知照いかたですか。高徒校のさくらも咲いて美しいことですよ。

どうですか新校舎もすこしははかどりましたか。君たちは今までのしけんをどうとらえていますか。校に連絡できてうらやましいなあ。僕は洛星中学校の入学試験に合格しました。

そして、四月八日新しい入学をしました。しかし、さししては友達が出来ずつまらなかつた。でも二三日のうちに大ぜい友達が出来て、今は楽しく勉強し、遊んでおります。中学校の新装はさすがにいいですね。君はどうですか。僕は今燃がひまもなく家に歸つても勉強は

かりしてします。僕らの学校はよく勉強もするが大変面白い学校で休けいのとき人におもしろい遊びなをつけたりしてはがらかにあびます。ではまたひまなときに学校のお話をお聞きしましょう。

さようなら 高徒校大工



手をとってあつて

小沢 啓一 郎

もう寝もすつかり放つて、清々しい縁に包まれた世界が、私達の心ものびのびとさせてくれます。

新しく入学した入生、無事二年に進級した人達にとつては、一層毎日楽しいことだらけ。私が見ていても、新入生の人々も、もう大分学校に馴れてきて二年生とも仲よく遊んでいる様子に微笑ましくなることが度々あります。

さて、こうしてパンを取つて、私も肩がよいプレゼントを洛星に

暗いといふと、思つたとき、笑はる。一番に話したいことがあるのです。でも、一寸読んでみて、「なんだ、そんなことなら知つてゐるのに」と言う人もあるかも知れません。しかし、まあ、そう言わないで下さい。

私が話しようと思つたことは、みんなが、何時でも一つの家族のようではなれない、ということ。人間は決して強りばかりで暮らすことはできません。学校には先生も、友達もいます。家へ帰ればお父さんお母さん、兄弟はお隣りの、お面いの人々が沢山います。学校の仕儀に乗る電車にも、私を乗せて下さる運転手さん達がいいます。毎日着ているもの、食べるもの、一つとして誰かの世話になつていないものはありません。アリストレスは「人間とは社会的動物なり」と言つていますが、本当にそうです。

しかし、もつと大切なことがあります。それは、私達の全ての人間は皆、同じ袖裾によつて作られた兄弟だ、ということ。私達は物質的にお互いに協力し、助け合つてゐるだけでなく、もつと深い心と心とで結ばれてゐるといふことです。

ことです。

勿論、君達が愛している人々、又君達を愛している人々、例へば父母兄弟、仲の良い友達と、君達とが心と心とで結ばれてゐることはよく知つてゐるでしょう。しかし、仲の良い人とも、或いは全く知らない人々とも、私達は同じ人間であるといふことによつて深く結ばれてゐるのです。良い場合にも、悪い場合にも、私達は手をとりあつて助け合はねばならないのです。「そんなことは僕には関係がないから知らんよ」といふことは許されないので。二手生の人達は、アダムとエヴァの原罪の話を知つてゐるでしょう。左つた一人の人が罪を犯したために、全人類がその罪の罰を受けねばなりませんでした。しかし同時に、たつた一人のキリストが私達のためにお苦しみになつたお陰で、全人類は救われたのです。同じように、誰か一人でも悪いことをする人があつたなら、その罪に対して私達にも責任があるのです。同時に、君達が少しでも良いことをしたなら、それは、全ての人のために役立つといふのです。このことを難しい言葉で言えば人類の共同責任といつて、カトリックの大変大切な考え方の一つなのです。そこで、もう一度話を元にかえしましょう。私達の学校にゐる君はみんな知らない人ではない人ではない人。いえ、ずっと親しい人間関係です。だからこそ、私達は顔をすくにも皆に協力し合はねばなりません。単に協力するだけでなくあります。お互いの良いことは同じように喜びをもつて、悪いことは同じように悲しみをもつて、そして悪いことがあれば同じように責任を感じて暮らさねばなりません。「僕は自分のことをちやんとしてしまつたのに、あいつはあんなことをしている。でも僕はそんなこと知るもんか」といつたような考え方は、一番原始的な汚い考えです。みんなで手をとりに合つて、家族のように兄弟のように、助け合い、励ましあひましょう。君達にお話したいことは、いくらでもあります。でも、又いろいろとお話できる機会もあるでしょう。今日は、新学期を迎えて、これから君達の考え方の一番の基礎として楽しいと思つたことを書いて私のささやかなプレゼントとしましょう。

四月の雨

二年A組

寺田明猷



今日も雨が降つてゐた。四月にはいつたに云うのに寒い日だつた。犬が小屋でまるまると寝てゐた。僕が行つてもまるまると寝てゐた。となりの新築の家の柱が妙に揺めかしい。前の空窓の煙には、何かしらないが、青い煙草がもじやもじやとわつてゐた。人も、こわれかかつた家も、橋もぬれてゐた。五六人の女の子が風呂敷で何かをりをして通り過ぎて行つた。時々自動車の通るでいる。あんなのジジーと云う音と、嵐の音と雨だれの音が聞える。その他にはもの音一つしなかつた。よづれた町が一巡に洗われた。雨は降つてゐた。いつかるともなく、ただ降つてゐた。夜になつても雨はふつてゐた。ここは都会のすれといえはすれだが、都心に行くと赤青の木オナが道路にうつつてそれが動いてとてもきれいだらう。時々木の葉をわたる風の音が聞える。雨の中にうかんで見える人家

の灯は妙になつかしきでなかんじさせる、雨はふつてゐる四月といふのにいまだな。

めし

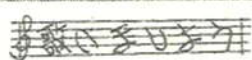
二・〇

紅竹 宏文

めしは私達にとつて切つても切れない関係にある。それに何かわづら私達はめしの存在をわすれることが多い。例へば、ある人は何を好みますかと聞くと、大部分のものは、野球とか、水泳と云つたものをあげる。しかしぼくならオ一にめしと答える。野球をするにも何をやるにも腹がへつていては出来ない。めしが必要なのである。ではぼくは一本どのようにして三度の食事をとるか書いてみよう。まず朝のめし、朝目がさめるとまず思ふ。それはめしとその副食物である。そしてそれがどんなものであるかと云うことを考える時が一番いい。言葉を交えて云うならば「我が一日の最良の時」とも云える。しかしあまりいいものを考へると食物を見た時にがっかりするのでぼくはあまりいいものを考へない。食べる時は、これを作つて下さつた人のことを思つてお食べ」と、よく学校などでは

われるがぼくはそんなことを考へない。早速考へるひまがないのだ。まずこのようにして朝めしを終る。次に昼めしであるが、昼めしはべんとう、として書こう。ぼくは絶対に朝、べんとうの中を見ない。それは行儀を考へての行いではない。もし見てしまへば学校の筋書の時に笑ひみがない。(こゝで一言云うがぼくは産はなにかやるには希望が必ず必要だ。希望がないと仕事をすることが出来ない。そこでぼくは勉強の時の希望を盛めりにかける。べんとうのふたを開く時の気持がどきどきと激打ちぼくの全精力はこのべんとうにかかると、この時だけぼくは何事をもわすれる。そしてまあ食べるわけだが、ぼくの食べ方を見よ、何事も語らずわすれたかのように食べる。めしを食べる時だけぼくは静寂を守つてゐる。次はぼんめし、学校の帰りにぼんめしのことがいつもうかんでくる。めしのことを考へる考へるくらずに自分の家に帰つてくると不思議なものだ。ぼくは勉強をいつも夜する。帰つた時は勉強する気持など全然ないわけはわかつてもらへると思ふ。まあ、ざつと大ざつとは云うとぼ

くの一生はこんなことをくり返してくり返して死につくの筈と思ふ。



天 敏 田 小

春の野山は美しい色とりどりの花で小鳥はその美しい声で神を賛美して居る。私は私達も聖歌に合唱にすばらしいハルモニで共に神を賛美しようではないか。皆さん、マリシマの

青い山にも次の歌が美しい話があります。河神セツサスの子といわれる美少年のナルシサスは山莊なるエコーから恋い慕はれて居たがこれを顧みず海にエコーはその美声のみを残して死に山莊と云つた。その報いとしてナルシサスは水中に映ける自分の影を見ては、なげきと云う水仙となつた。とそれで今でも私たちが山に遊びかけた時答へるのはそのエコーである。伝えられて居ます、この歌に美しい音声と人生とは離れられないものです。離せないものである以上私達はそれを築き上げよう。豊かな立派な世界を作り上げよう。はありませぬか。歌は人生に潤いと励みを与えて呉れます。もし人生に歌がなかつたらどんなに淋しい秋風景なものでしょう。辛い私達に歌を持つて居ります。歌を生かしましょう。



金山の発杭

二年〇組 奥田良風

私は母の故郷の田舎へ行つたのだ。かな日に病に臥し、漁船は大きなあくびをした。その金山で(田舎の行前)

去年

私は金山の発杭を見た。砂浜太の入口からのぞくと冷たい風が吹いてきて、なんぞかおそろしくかつた。壁台にいく細い道が、その前を通つていた。壁台にいくその道を幾人かの人、十円銅貨をにぎつて登つてきた。その人達を金山は、不思議さうにのぞかし

告

戦時中に政務をこなさしめようと
しむという
まだ入っているかも知れぬ
軍艦「大和」もお前の前にしまつ
たのだ
お前のごときそれだけの力がある
のか
私はおとどろしい金山が好きだ私は
来耳もそこへ行くだろう。

洛星新聞の批判

B組 高橋久明

洛星新聞批判以来これで第四号
を迎えるわけだが僕は今までの洛
星新聞を見てこのような事を感ず
る。それは新聞全体が作文一色の
ようになつてゐる事である。第三
号には少し京都私立学校競技会の
もようがのつていたがあとは全部
作文である。第一面までが作文で
あつたがいくら学校新聞だといつ
てもあれではあまりにもたよりな
くはなからうか。第一面には学校
をこのうい風にしよといふ学校の
規則をこのうして守らうといふよう
な文、すなわち学校を少しでもよ
くするような文をのせた方がいいい
と感ず。そして作文や詩は代表作
を少しのせる争にしまはどうか。

詩 希望

一年B組 藤井 健三

日は目の前に海を見た、
海は銀のようにピカピカ光つて
いた。
沖を汽船が走つてゐる。
へ先をあげマストおだてて走つ
てゐる。
白い雲がカーテンのようにかか
つてゐる。
あの大きな海のような心の帝王
となろう、
汽船が水平線のかげにまててな
くなつた、
あとは海なりがたえずサアンガ
ブンと、
岩石にあたりつてゐるだけだつた、
青白い、静かな海である。
オバケ道
二年A組 面谷仁志
雨上りの夜の道
一人木ツチでオバケ道を
あとから足音がついてくる
僕はだんだん早足になつた
街燈の下に出た時
アレルシと寒げな覺えて
家に帰つた。

帰り道

一年B組 松井重典

学校の帰り道
うしろから、自動車、荷重、自
転車が通り過ぎていく
うしろから、前からも
ほこりをまいて、走つていく
そのほこりの中を
ぼくは帰つていく、

従順であれ

二年 杉本 良夫

洛星中学校校歌の作詞者で、ウ
イアートル学園アジア院長のカリ
工神父様が、かつて本校においで
になつた時、御ミサをあげていた
ときおとせ次の御言葉をお話を
うかがつた。

昔イタリアにベンヴェニスと
いふ少年がいた。彼はとても絵を
画くことが好きであつたが、両親
は彼を立派な音楽家にしたたいと考
えていた。そこで彼は両親の考へ
に素直に従ひ熱心な音楽を学び、
立派な音楽家となることが出来、
その結果ローマ法皇の前で演奏す
ることになつた。演奏は成功し、
般口法皇と会つた。法皇は「君は
何が一番好きか」と問はれた。ベ

ンヴェニスは答へて言つた。「絵
を画くことです。」法皇はそれを
聞かれて一流画家から、般に絵を
ならせられたといふ。

天主様に対して、養父様、お
母さんに対して、最も従順であ
つた例はイエズス、モリストであ
る。イエズス様は、その少年時代に
於てヨゼフ様の大工仕事のお手
伝をこれら、家のお掃除もこれ
た。天主様の御子でありながら、
これらの話から、私達は常に従
順でなくてはならぬことを知る。

父母に先生に従順であることは同
時に天主様に従順なことである。
従順こそは永遠の生命をうる最も
大切な手段の一つである。

連絡板

五月十四日 遠足、場所未定
全 二十三日 二年父兄会
全 二十五日
全 三十日 中間考査
大月七日 聖体行列、夏祭會
全 十三日 一年父兄会